

テーマ

(1) 教育データの活用 (2) 公園は誰のものなのか？

適用分野

教育工学、情報教育
都市公園、街路樹・公園樹



研究名称

教育データの分析を通して教育の改善を図る
都市公園、街路樹・公園樹の問題を考える

氏名所属

谷口るり子 教授
マネジメント創造学部

内容

●特徴：(1) 教育データには、試験の点数等の評価点だけではなく、授業アンケートの結果や、学習履歴などのネットワークを利用することで入手しやすくなったデータもある。これらのデータを用いて教育の改善方法や学習支援方法を探る。(2) 全国的に官民連携の「稼ぐ公園」が広まっている。商業化された都市公園が成功事例として紹介されるのが現状であるが、この公園の商業化問題を検証する。また、これと同時に街路樹・公園樹の伐採が一部の地域で進められている。この問題の実態も明らかにしたい。

●研究内容：(1) 学校・大学における教育は、2020年度からコロナ禍の影響を大きく受け、特に2020年度前期はほとんどの大学は全面オンライン授業となった。この学期の本学部の授業アンケート結果を分析することで、コロナ禍におけるオンライン授業の影響、各科目群の特徴、本学部の教育の特徴を明らかにする。(2) 自治体から公園の維持管理を委託された民間企業が、公園内の商業施設から得られる収益で公園の維持管理費を賄うPMO事業等の導入が全国的に進んできている。この成功事例としてよく取り上げられるのが大阪城公園であるが、大阪城公園では2015年にPMO事業が導入され、その後の3年間で商業

施設が一気に建設された。コロナ禍前の全国的にインバウンドが好調だった時期は、PMO事業者は順調に収益を上げることができ、大阪市への納付金も増加した。しかしこの商業化には負の側面もある。商業施設建設前には市民への周知無しに約1200本の樹木が伐採され、公園内に有料施設が数多くできてしまった。また市が公表する「大阪城公園PMO事業の収支」には、市負担の工事費、災害復旧費等は含まれていない。コロナ禍においては、市は事業者に対し莫大な損失補填を行っており、これも含めると近年は大幅な赤字であることが明らかになった。また、大阪市は2018年度から「安全対策事業」という名の街路樹・公園樹の伐採事業を展開している。この事業の詳細を調べ問題点を明らかにしたい。



大阪城公園：東京新聞2023年2月7日・朝日新聞2019年7月3日（谷口撮影）

キーワード

教育データ、オンライン授業、情報教育、大阪城公園、都市公園、街路樹と公園樹

連携方法

■ 講演 □ 研修 □ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究